3 酵素のパイオニアとして変わり続けること、変わらずにいること。

最近よく話題にのぼる「酵素」。日本で初めて酵素飲料を開発し製造販売した大和酵素、その若き社長の矢野泰介氏曰く「私たちの生活の周囲には発酵にかかわる製品が溢れています。味噌や醤油はもちろん、医薬品などの一部も発酵の応用技術でつくられており、発酵は酵素と深い関わりがあるんです」。終戦直後の昭和21年、初代社長の大和国生氏が食と栄養に着目。「さまざまな栄養が調合されて、それひとつ飲めば元気になる」栄養食品としてスタートさせた。同社のロングセラー商品である「本草（ほんぞう）」は、産地直送の国産70種類の野菜から栄養分を発酵抽出した手づくりの酵素飲料だ。応用微生物学の博士でもある矢野氏が社長に就任後、新工場を増設。既存の機械の改良にこれまでのノウハウをつめ込み、生産効率をアップさせた。またKKD（経験・勘・度胸）管理からの脱却を掲げ、生産性向上だけではなく、品質管理、安全管理体制の拡充への取り組みも重ね、工場は公益財団法人日本健康・栄養食品協会が認定する「原材料GMP」と「製品GMP」を取得。販売に関しても新しい道を模索している。これまでは地域に根差した薬局・薬店に販売してきたが、今後は現状の販売網を活かしつつ、飲んでもらう機会を増やすために、ネット販売も視野に入れているという。新たな革新を続ける同社だが、創業時に誓った初心は変わらない。商品が有名になるよりお客様が健康になって欲しい、という想いのほうが強いという。「広告宣伝にお金をかけるなら、商品や工場の設備に投資したい。食品会社なので、一番大切なのは品質管理。すべての工程で安全、安心を積み重ねることで、いい商品が生まれると信じています」

ビタミン・ミネラルも入った酵素飲料「本草（ほんぞう）」。完全発酵&短期熟成によって、酵素の種類が多く、フレッシュジュースのようにスッキリとした飲み口

2年前に新工場を増設。新たな製造方法を導入して、歩留まり率や抽出液の純度の向上を図った。健康食品GMPの適合認証も取得

大和酵素株式会社
http://www.yamato-kouso.com/
泉北郡忠岡町高月北2-3-17　TEL 0725-45-2200

4 超高齢社会の課題を解決する新たなビジネスモデルは「ネイル」?!

QRコードを読み取ることができるスマートフォンなどをシールにかざすと、連絡先窓口の電話番号が画面に表示される

「コスプレ感覚で着物姿が楽しめる」と外国人観光客に大人気の「和美換（WABIKAE）」

「歳を重ねて、できなくなることを、できるように」。超高齢社会に向かう日本において認知症患者は既に400万人に達しており、患者のケア、QOL対策は社会全体で取り組むべき重要な課題となっている。大阪においても成長産業となりうる健康寿命延伸産業を創出・振興する「大阪健康寿命延伸産業創出プラットフォーム」が設立されるなど課題解決の取り組み促進が進められている。そんななか、ツインズ・コーポレーションでは、徘徊老人の保護にフォーカスしたビジネスを提案。大阪府の「デザインサポートプロジェクト」の課題解決デザイン部門にも入賞した「コードネイル徘徊老人保護システム」は、徘徊老人の公開可能な連絡先をQRコード化して印字したネイルシートを爪に貼り、社会的インフラとして保護システムを構築、徘徊老人の迅速な保護を可能とする、というアイデア。代表取締役の小野宏積氏は言う。「徘徊されている方は発見されても、身元照会もできないことが多い。ひとつでもセーフティネットを増やすことで、連絡を待つ家族の不安を安心感に変えたい」。小野氏はこれまでもさまざまな商品アイデアに関わってきた。マジックテープを貼り合わせ、金具を引っかけるだけ、5分で綺麗に着られる着物「和美換（WABIKAE）」は大胆な発想で手を加え、着物の美しさを損なうことなく簡単に着られる商材へと変身させ、さまざまなシーンで活用されている。外国人観光客も簡単に着られるので、インバウント戦略のアイテムとしても期待されている。これも根底にある想いは同じ。バリアフリーの発想から生まれたものだ。すでに2012年末に実験実証として、福祉法人で「着物ファッションショー」を開催。今回の商品にも、社会貢献に興味を持つ企業からの問い合わせもあり、ネットワークを構築中。今後、実証実験を重ねて、ビジネスモデルの確立を目指すという。

株式会社ツインズ・コーポレーション
http://www.wabikae.biz/
大阪市中央区農人橋1-1-7 谷町エクセルビル9F　TEL 06-6940-4958

5 時代を見据えたフレキシブルな姿勢。その柔軟性は海外人材の受け入れにも。

中小企業にとって、人材の確保・育成を出発点とする人材戦略は、生き残りをかけた重要な経営課題のひとつ。サツマ超硬精密では、外国人採用によってこの課題をクリアする。同社は1971年創業、超硬合金工具向け素材の製造をはじめ、超硬合金やスチールを素材とした金型部品などの精密加工まで、すべての加工工程を自社一貫生産。80年代には鹿児島出身である先代が、地元から工場誘致を受け、加工部門を移転。現在は約3,000坪の広大な敷地に4棟の工場を運営し、プレス金型設計から部品加工、検品までの行程が鹿児島工場でおこなわれている。同社で生産される製品は、小ロット多品種化の時代の流れを反映し、実に幅広い。「時代の流れが速い現在、何かに絞って邁進するのではなく、幅広い分野でフレキシブルに対応していきたい」と語る、代表取締役社長の田尻信明氏。その柔軟な姿勢は人事にも。同社には現在5名のベトナム人が就労している。知人の勧めで採用したのが3年前。その働きぶりに驚いた。「工業大学を出て現地企業に勤め、日本語学校で学んでいるので、ポテンシャルも高い。またエンジニアの資格を持っているので、延長申請をすれば何年でも働けますし」来春にはベトナム人従業員は10名になる予定。最初に入った社員は、すでに新人の指導や通訳としても活躍している。「職場に慣れるのが早く、真面目で人懐っこいのでベテラン職人に可愛がられています。職人も彼らと接することで明るくなり、職場にも相乗効果がもたらされている」。しなやかに時代に対応する姿勢が、結果として多様な人材活用による“ダイバーシティ経営”につながり、組織力や競争力を強化していく、そんな好例だ。

生産の拠点を担う鹿児島工場。旋盤、マシニング、ワイヤー、放電、研磨、プロファイルなどのNC機を多数設置。最新鋭のマシンによる加工技術の向上により、多品種・少ロット生産を実現している

株式会社サツマ超硬精密
http://www.satsumanet.co.jp/
大東市新田中町2-9　TEL 072-871-6714

6 冷間圧造のパイオニア。プライドを胸に、さらなる革新を。

敷地に誇らしげに鎮座する、多段ヘッダー。これはテクニスの礎を築いた創業者・西田庄次郎氏が、創意工夫を凝らしてつくりあげた国産のヘッダー第一号機。1955年頃まで「冷間鍛造の生押し六角ボルトヘッダー」として日本市場を独占していた怪物だ。代表取締役社長の西田和子氏曰く、「祖父は旋盤工で、資料もなかった時代に独学で設計し、苦労して自分でつくりあげたと聞いています」。冷間圧造とはコイル状の素材を加熱せず、圧造機械で力を加えて塑性加工する方法。常温で加工するため熱による歪みが少なく、精度の高い製品を均一につくることができる。この製法で1927年には六角ボルトの製造に成功。これが現在の六角ボルトの原形となる。100年の時を超え、冷間圧造一筋に歩み続けられたのも、この六角ボルトを源流とする、技術への挑戦が途切れることがなかったからだ。長い歴史のなかで、この冷間圧造工法をベースにして、その周辺の加工技術を含んだ複合加工技術を確立しており、最近では新技術開発による転造タップの雌ネジ形成量産化も実現させた。これまでナットは、「切削タップ」と呼ばれる加工法でつくられてきたが、加工中に切粉がナット内部に残り、ボルトとの嵌合不良が発生するなどの問題があった。そこで転造タップによる独自の加工法により、雌ネジの量産成型方法を確立させ、自動車メーカー向けに供給している。「私たちがものづくりに携わるのは、10万本に1本の不良品も出せない、そんな精度と品質が求められる世界」だという。そして、その品質をつくるのは「人」だとも。だから同社では、正社員をゆっくりと育てていく。「従業員を大切にしない会社に未来はない、そう考えています」

1927年に7度打冷間圧造法による六角ボルトの製造に成功。商標登録した「星」印六角ボルト。これは1941年当時のもの

雄ネジの転造技術を活かし、転造タップによる内ネジを成形し、ネジ底の材料を盛り上げてネジ山を形成するため、切粉は発生せずに多量生産も可能とした

株式会社テクニス
http://www.technis.co.jp/
枚方市招提田近1-10　TEL 072-857-3811

大阪府経営革新計画承認企業
大阪府では、中小企業者の経営革新を支援するため、中小企業新事業活動促進法に基づく経営革新計画の審査・承認を行っている。「経営革新計画」を承認した企業（大阪府経営革新計画承認企業）のシンボルマークは、大阪府メインキャラクター「もずやん」。